

会議の名称		決算特別委員会 環境市民厚生分科会		会議場所	第1委員会室	
				担当職員	小野	
日時	令和5年9月15日(金曜日)			開議	午前 10時 00分	
				閉議	午後 4時 43分	
出席委員	◎大塚 ○富谷 大西 大石 土岐 梅本 平本 西口					
理事者出席者	【市民生活部】森川部長 【市民課】坂田課長、釜中副課長、 【火葬場整備推進課】田中課長 【保険医療課】吉田課長、的場国保給付係長、下西国保料係長 【税務課】松野課長、岩崎副課長、上澤副課長 【こども未来部】中川部長 【子育て支援課長】川田課長、中村母子事業担当課長、井尻副課長、 西村子どもファースト推進係長、藤田こども給付係長 【保育課】原田課長、中井保育所担当課長、橋本保育政策係長、谷保育幼稚園係長 【市立病院】田中病院事業管理者、土岐部長 【病院総務課】吉村課長、巻田管理係長 【医事課】松野課長 【経営企画室】竹内室長					
事務局	小野主任					
傍聴者	市民	0名	報道関係者	0名	議員	0名

会議の概要

1 開会

2 付託議案審査

[理事者入室] 市立病院

(1) 第13号議案 令和4年度亀岡市病院事業会計決算認定

<病院事業管理者>

(あいさつ)

<病院総務課長>

(資料に基づき説明)

～10:47

[質疑]

<梅本委員>

期限切れなどによって発生した薬品や医療資材に係る損失の金額は妥当なのか。

<病院総務課長>

薬品や医療資材によっては、複数セットでしか購入できないものがあり、患者が退院するなど、使用する機会がなくなり、破棄・廃棄することになることがある。

<病院事業管理者>

抗がん剤など、個人に合わせたものを用意する場合は、他の患者に使用することができないため、廃棄することになる。

<平本委員>

前年度と比較して100万円程度増えているが、高額な薬剤が必要な患者がいたのか。

<病院事業管理者>

そのようなことも要因の一つである。ほかにも、国際情勢によって薬が手に入らないということも要因の一つになったと考えられる。

<大石委員>

病床使用率について、コロナ病床として17床確保しているが、それを除いた使用率が68.5パーセントなのか。

<病院事業管理者>

コロナ病床も分母に入れて積算している。コロナ病床17床を除き、83床で計算した場合の病床使用率は82.6パーセントである。

<西口委員>

看護師は十分に確保できているのか。

<病院事業管理者>

看護師不足は深刻であり、京都中部総合医療センターも新病院として設立した際に、看護師不足を理由として一部のベッドを返上している。看護師の需要は高まっており、給与水準も上昇しているが、地方には看護師が少なく、遠方からの移住も少ない状況である。亀岡市では子どもファースト事業などを通じて若い看護師を呼び込み、将来的な看護師確保に取り組んでいる。

<西口委員>

9月議会の一般質問の中で、亀岡市政に貢献された方に対して奨学金の減免を行う「亀岡モデル」を提案した。また、保育士については、人材確保のため、2万円を支給し長期雇用を促す取組が進められている。このような制度を創設し、看護師を確保することはできないか。

<管理部長>

経験豊富な人材の離職は病院にとって損失となるため、昨年には看護師の給与を月1万2,000円増額する処遇改善を行うなど、他の病院に遅れを取らないよう離職対策を検討している。

<平本委員>

光熱水費が増えている理由は。

<病院総務課長>

電気代と重油の単価が上がっている。

<梅本委員>

これまでの実績をどのように評価し、どのように病院事業を展開していくのか。

<病院事業管理者>

消化器外科部門が充実できるよう体制を整備していく。

<平本委員>

一般質問で原野議員が小児科の体制整備について質問されていたが、その内容についてどのように検討しているのか。

<病院事業管理者>

原野議員の質問のとおり、小児科の充実は重要な課題であると認識している。現在、小児科医は1人であり、働き方改革の観点からも午前・夜間の診察、外来、入院の対応を行うことは難しい。小児科医を増員したいと考えているが、全国的な傾向として、出生率に比例して小児科医を目指す医学生が減っており、そういったことも全国的な小児科医不足の要因の一つになっている。本市立病院が連携している京都

府立医科大学附属病院は、京都中部総合医療センターに小児科を集約したいという考えが強いと聞いているが、亀岡市独自の事情もあるため、京都中部総合医療センターとの役割分担を検討していく必要があると考えており、京都府立医科大学附属病院とのパイプを太くして引き続き要望していきたい。

<梅本委員>

今年度から訪問看護ステーションが設置されているが、新たな取組や事業の拡充を考えているのか。

<病院事業管理者>

訪問看護ステーションの利用者は毎月増加している。民間の事業者も本業務を実施しているが、公立病院として、市街地から離れた地域などを丁寧にカバーしていきたいと考えている。

<富谷副委員長>

免疫発光測定装置を購入されたが、この装置はコロナ以外にも使用することができるのか。

<病院総務課長>

この装置は、PCR検査を行うものであるが、他の感染症にも対応できないか考えている。

<富谷副委員長>

医療機器の中でも高額なものであるが、専門家の判断など選定基準はあったのか。

<病院総務課長>

精度が高いものを選定しているが、精度の高さに比例して高額になるため、バランスを見ながら判断している。

<病院事業管理者>

医療機器は非常に高価なものが多く、機器の選定には苦慮している。単純に競争入札を行うと安価であるが、性能の悪いものを選定することになる可能性がある。将来的なことを考えるとそのような選定方法は目的にそぐわないと考える。昨年度、MRIを更新した際にはプロポーザル方式とし、市立病院の医師と外部専門家として京都府立医科大学附属病院の医師を委員として、機器の評価・選定を行った。原野議員が一般質問でおっしゃっていたような、民間の病院には機器を安く売り、公立病院には高く売るといったようなことがあるのか実態は分からない。機器の営業販売されている方が、民間の病院に機器を売り込む際にそのようにおっしゃっていたかもしれないが、開業医に納入される機器は、市立病院に納入するものより1ランクか2ランク安いものである。新しく性能が良いものになれば、価格が何倍にもなることは多く、型落ちの機器は、少々安く売ってでも在庫をはけてしまったほうがよいという事情があるかもしれないと思っている。公立病院として、一定水準以上の能力を有している機器を選定する必要があると考えており、京都府立医科大学附属病院で、医療機械に携わっておられる医師に支障がないということを確認し、機器を選定している。

<平本委員>

研修旅費が増えているが、これは学会などに参加する機会が増えたということか。

<病院総務課長>

コロナの影響で、2年から3年間は研修に行くことができなかったが、状況が変わってきたため、学会などへ参加する機会が増えたものである。

<西口委員>

沖縄県に看護師の知人がいるが、沖縄県では自宅での看取りが広がっているようで

ある。亀岡市ではどのような状況なのか。

<病院事業管理者>

亀岡市でも一定の需要があり、実際に開業医で看取りを行われていた方もおられたが、高齢となり当該業務から外れるなど、看取りに関わる医師が減っている。具体的なことは決まっていないが、市立病院としても看取りに関わっていくことも考えている。

<大塚委員長>

委託料が2億9,100万円程度あるが、随意契約しているものの詳細は。

<管理部長>

大きなものとしては電子カルテ関連のものなどがあるが、これについては、導入した事業者が保守を行う必要があるため随意契約としている。随意契約は、委託料全体の半分程度となっている。

<大塚委員長>

入札の場合の契約期間は。

<管理部長>

基本的には1年であるが、医療事務、給食、設備運転、清掃、警備など、人材の確保が必要な業務については2年としているものもある。

[理事者退室] 市立病院

< 休憩 11:39 ~ 13:00 >

[理事者入室] こども未来部

(1) 第4号議案 令和4年度亀岡市一般会計決算認定

<こども未来部長>

(あいさつ)

<各所管課長>

(資料に基づき説明)

~13:51

[質疑]

<平本委員>

地域共生社会実現サポート事業補助金の詳細は。

<保育課長>

保育園を運営している社会福祉法人が実施する、災害対応力向上の事業に対する補助金である。防災用のパラソルや災害用の備品、非常食の購入など、災害に備えたものを購入したことに対して補助を行っている。

<平本委員>

令和3年度から事業費が増加している理由は。

<保育課長>

法人が実施した事業費が増加したためである。

<土岐委員>

施設運営費が増額している。電気料金が高騰していることは理解するが、保育園の照明のLED化は進んでいるのか。

<保育課長>

民間保育園で使用する電気、ガス、燃料、給食費に対して、物価高騰対策補助金を交付している。保育園における照明のLED化の状況は把握していない。

<富谷副委員長>

保育士就職奨励金対象者数が22人となっているが、この中に転居支援金を受けた方はおられるのか。

<保育課長>

22人のうち1人が転居支援金を受給されている。

<平本委員>

おむつの無償提供と処分について、利用者にニーズ調査などを行う予定はあるのか。

<保育課長>

今年度に保育園などを通じて調査を実施した。保護者から「おむつの名前書きや持ち帰りがなくなり負担が軽減した」「経済的な負担が軽減した」といった意見をいただいている。保育園などからも「園児別のおむつの管理や保護者へのおむつの補充の連絡などがなくなり、子どもと関わる時間が増えた」「保育士が枚数を気にせずにおむつを使用することができ、より園児の清潔が保持できるようになった」と喜ばれている。

<平本委員>

大変喜ばしい結果である。調査を通じて見えてきた課題はあるのか。

<保育課長>

おむつの発注は園で行っており、おむつの在庫管理が負担になっているという意見がある。今後そういった負担の軽減に努めていきたい。

<大西委員>

新たに整備された「KIRI no KO」は、開設時に施設内を見せていただいたが、とてもよいと施設だと感じた。今では人気があり、多くの利用者がいると聞いているが、木育事業負担金は、市が毎年支払っているのか。

<子育て支援課長>

サンガスタジアム内の場所を借用しているため、毎年度支払いしていくことになる。金額としては1年間で1,500万円である。

<大西委員>

子どもや子育て世代の交流は大変重要であるが、まずは亀岡市民の利用が重要だと考えている。市民からは、市民割引制度の復活や平日の割引など、市民の交流を促進する施策が望まれている。市外からの利用も大切であるが、まず亀岡市内の子育て世代を支援する施設として充実させるべきではないか。

<子育て支援課長>

木育ひろばは、本年4月22日にオープンし、8月末までに2万703人の方が利用されている。市内外の利用者の内訳は、市内の方が24%、市外の方が76%であり、市外の方の利用が多い状況である。市民には無料券を配布しており、その券は平日に利用していただけるようになっている。

<大西委員>

市外の利用者が多いにも関わらず、亀岡市が年間1,500万円を投じていくことについて所見は。

<子育て支援課長>

この施設を運営している事業者とも協議し、亀岡市民にとって利用しやすくなるような広報などを引き続き行っていきたい。

<大西委員>

公立保育所の修繕料の詳細は。

<保育課長>

エアコン、調理器具、水周りの漏水やガラスの損傷による修繕である。

<梅本委員>

施設の老朽化が問題になっているが、修繕の計画などはあるのか。

<こども未来部長>

公立保育所は老朽化が進んでおり、トイレや遊具の改修を進めている。特にトイレの洋式化に取り組んでおり、その他の箇所などについても計画的に修繕を進めているが、予算確保や優先順位の調整が課題となっている。今年度も予算要求を行い、修繕を進めている。

<平本委員>

以前から申し上げているが、家庭相談員の負担は大きい。現在、家庭相談員は7人おられるが充足しているのか。必要であれば人材を確保する必要があると考えるがどうか。

<子育て支援課長>

児童虐待の件数は増加し内容も複雑化しており、業務の負担は大変大きい状況である。今後も児童虐待の対応が増える可能性があるため、組織の強化が重要であると考えている。

<平本委員>

子育て短期支援事業経費が令和3年度から約3倍になっているが、その理由は。

<子育て支援課長>

昨年度は、コロナの影響で受け入れ体制が整わなかったため減少していたが、今年度は受け入れることができるようになったため、相対的に増加している。

<平本委員>

ショートステイの利用者について、令和3年度は利用者が8人であったが、令和4年度は52人に増加している。これはコロナの影響で増えたのか、コロナの影響が落ち着いたから増えたのか、どのように分析しているのか。

<子育て支援課長>

昨年度は、コロナの影響で受け入れ体制が整わなかったため減少していたが、今年度は受け入れることができるようになったため、相対的に増加している。

<西口委員>

トイレの改修に伴い便器の洋式化を行っている園があるが、各家庭でウォシュレットが普及してきているため、これを機にトイレにウォシュレットを設置してはどうか。

<保育課長>

子ども用のトイレにはウォシュレットがついていないため、園とどのような形がよいか協議した結果、ウォシュレットはつけていない。

<西口委員>

家庭でウォシュレットを使用している子どもは、清潔に洗浄できることから、ウォシュレットがあれば使用したいという希望があると思う。蓋だけ変えればウォシュレットを設置することができるので、改修を行っている今のうちに検討してはどうか。

<保育課長>

そのようなことも含めて考えていきたい。

<大石委員>

保育環境の改善として、トイレの改修、照明のLED化、雨漏りやエアコンの修繕などがあり、一度に行うと多額の費用を要するため、優先順位をつけて実施していく必要があるが、施設の整備計画などを策定する予定はあるか。

<こども未来部長>

計画的に予算要求し整備を進めていきたい。

<富谷副委員長>

里帰り出産に係る助成金の利用者は増えているのか。

<保育課長>

令和3年度は41人、令和4年度は49人と増加している。

<富谷副委員長>

3歳児健診で目の屈折検査を実施し、早期治療につながった件数は。

<子育て支援課長>

3歳児健診における屈折検査は令和4年度から実施しており、全員に検査を受けていただいている。その中で、精密検査を行うことになった方は31人おられた。まだ3歳児健診の受診率が7割強であるため、引き続き受診されていない方への受診勧奨を行っていく。

<富谷副委員長>

父親のパパママ教室への参加状況は。

<子育て支援課長>

父親は9割程度参加されている。

<富谷副委員長>

乳幼児健診や「こんにちは赤ちゃん訪問」など、母子と対面する機会が多いと思うが、子どもの虐待やDV、孤立化など、家庭の事情が把握できた事例はあるか。

<子育て支援課長>

各事業を通じて切れ目なく支援することで、信頼していただけるような関係づくりに努めている。要保護児童など、支援が必要な家庭は増えていると感じており、母子保健だけでなく、関係機関と連携し情報を共有しながら取組を進めていく。

[理事者退室] こども未来部

[理事者入室] 市民生活部

(1) 第4号議案 令和4年度亀岡市一般会計決算認定

<市民生活部長>

(あいさつ)

<各所管課長>

(資料に基づき説明)

～15:26

[質疑]

<梅本委員>

法律相談の相談時間は大変短く、解決に至ることが少ないのではないかと考えるが、その後はどのようにフォローしているのか。

<市民課長>

法律相談は相談時間が約20分と短く、解決に至らなかった場合は、2回まで法律相談することができることとしているため、再度の相談を案内するなどの対応を行っている。

<大石委員>

相談件数は増えているのか。

<市民課長>

令和3年度は610件、令和4年度は658件で増加している。

<平本委員>

不動産鑑定評価業務委託料が大幅に増額している理由は。

<税務課長>

固定資産税は3年に一度評価替えを行っており、鑑定評価を行うため3年ごとに必要となる経費である。

<平本委員>

令和3年度にこの経費が執行されている理由は。

<税務課長>

毎年、下落修正のために鑑定を行っており、この経費は毎年発生するものである。

<大石委員>

マイナンバーカード関連のトラブルはないか。

<市民課長>

マイナンバーカードに関するトラブルが報道され、本市においてもマイナンバーカードの返納が10件あった。その主な理由としては、個人情報漏洩に対する不安や国に対する制度の不信感などであった。本市においては、特にトラブルは起こっていない。

<梅本委員>

マイナンバーカードを利用して、どのようなものが取得できるのか。

<市民課長>

住民票、住民票の記載事項証明書、印鑑証明の3種類である。

<梅本委員>

取得できるものを拡充していく予定はあるのか。

<市民課長>

他市では、戸籍や税の証明書を発行されているところもあるが、本市においては現時点でそのようなことは考えていない。

<大西委員>

老人医療助成経費の中で給付総額が4.5パーセント増加している理由は。

<保険医療課長>

医療費の高額化が原因であると考えている。

<大石委員>

現火葬場における修繕の方向性は。

<火葬場整備推進課長>

火葬場の火葬炉は、通常10年ごとに大規模改修が行われる。現火葬場は建設から20年以上が経過しており、この間2回の大規模改修を行っている。最近の大規模改修からは10年以上が経過しており、専門家による点検を通じて耐火レンガの補強を行っている。今後も専門家と協議を重ねながら維持管理に努めていく。

<平本委員>

後期高齢者健診事業経費の中で、人間ドック受診者数が増えている理由は。

<保険医療課長>

国民健康保険で人間ドックを受診されていた団塊の世代が、後期高齢者保険に移行されていることが要因の一つであると考えている。

<平本委員>

コロナによる受診控えはあったのか。

<保険医療課長>

令和元年度から令和2年度はコロナの影響と思われる受診控えのような状況が見られたが、令和3年から令和4年にかけて元の状態に戻りつつある。

<大石委員>

市民相談の件数は令和3年度と比較してどのような状況なのか。

<市民課長>

令和3年度の相談件数は354件、令和4年度は342件であり12件減っている。最近の相談内容としては、インターネットのトラブルが増えている。

<大石委員>

年代別の相談割合は。

<市民課長>

70歳代、60歳代、40歳代が多く、10歳代は1パーセント未満である。

(2) 第5号議案 令和4年度亀岡市国民健康保険事業特別会計決算認定

<保険医療課長>

(資料に基づき説明)

～16:25

[質疑]

<平本委員>

出産育児一時金について、対象件数が44件あるが、この中に海外出産の方は含まれているのか。

<保険医療課長>

1件含まれている。

<平本委員>

その1件の国籍はどこか。

<保険医療課長>

国籍は日本である。

<平本委員>

一部でこの一時金を不正に受け取られているという話を聞くため、不正受給がないようチェックをお願いしたい。

<大西委員>

病院によって脳ドックの金額が異なる理由は。

<保険医療課長>

脳ドックや人間ドックは、個別に医療機関と契約しており、病院によって機器や検査内容などに特色があるため、金額も一律ではなく差額が発生する。

(3) 第8号議案 令和4年度亀岡市後期高齢者医療事業特別会計決算認定

<保険医療課長>

(資料に基づき説明)

～16:42

[質疑なし]

[理事者退室] 市民生活部

<大塚委員長>

今回は、9月19日(火)午前10時から事務事業評価を行う。本日はこれにて散会する。

散会 ～16:43